

三方五湖学習

三方五湖自然教室 伝統漁法に挑戦しよう・たたき網

冬の三方湖の風物詩“たたき網漁”の体験イベントが、12月5日に開催されました（主催：福井県海浜自然センター）。

講師は、鳥浜漁協組合長・田辺喜代春さん。田辺組合長から“たたき網”の“たたき方”の説明を受け、参加者自らが5mの青竹で湖面をたたき、冷たい水の中でじっとしていたフナを驚かせて網へ追い込むことに挑戦。50cmほどのフナを捕ることに成功しました。

たたき網の体験の後には、コイの味噌汁などをいただき、冬の湖めぐみを満喫した一日でした。



写真：福井県海浜自然センター

自然再生関連会議等開催情報

- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・令和3年11月27日…研修会
- ◆環境教育部会
 - ・令和3年12月20日…プロジェクト会議（リモート）

Facebook サイトをご覧ください！

三方五湖自然再生協議会では、Facebookにて随時情報発信をしています。「三方五湖自然再生協議会」で検索いただくか、右のQRコードからアクセスいただけます。皆さまの活動の情報も、随時受け付けておりますので、ぜひ事務局までお寄せください。

最新情報は
↓こちらから



三方五湖のなかまたち

モリアオガエル(アオガエル科)

- ・体長：オス・4～6cm
メス・5～8cm
- ・森林に生息し、主に樹上で生活します。
- ・5～7月に、オスはコロコロと鳴いてメスを呼び、水辺に張り出した樹木の枝先などに白い泡状の卵塊を産みます。



三方五湖の自然とめぐみTOPIX

三方五湖地域のエコツーリズムを考える、“美浜町・若狭町アクティビティ連絡会”開催

令和3年11月26日夜、三方青年の家にて「美浜町・若狭町アクティビティ連絡会」が三方五湖DMO株式会社の呼びかけで開催されました。会の冒頭で、同社COOの田辺一彦氏が「地域の自然を守りながら活用を盛り上げていきたい。皆で力を合わせて取り組みたい。」とあいさつ。その後、出席した25団体・個人から、エコツアーに関連する日頃の活動の紹介や意見交換がありました。今後も連絡会を開催し、皆でエコツーリズムを盛り上げていくことが確認されました。

問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課、産業振興課
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷第25号25番地
TEL 0770-32-1111（代表）
- 若狭町環境安全課
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

このニュースレターは「令和3年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

三方五湖 ニュースレター



No. 26
令和4年1月1日発行



フナの缶詰試食会

目次

- フナの缶詰を開発中！、子どもラムサールクラブ …… 1
- 伊藤園から寄付、石倉かごの設置 …… 2
- 三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、三方五湖の自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち …… 3

フナの缶詰商品を開発中!

三方五湖産のフナを使った缶詰開発を、若狭高校、鳥浜漁業協同組合、(一社)Switch Switch、県里山里海湖研究所が協力しながら進めています。

そのフナ缶試食会を10月7日に行いました。この日は、若狭高校の生徒が鳥浜で食べられているフナの煮つけの味を再現しようと、6種類の味付けを試作してくれました。20人弱の参加者がそれぞれの味を試食し投票した結果、砂糖が多めの甘みのある味付けが好評でした。一方、地元鳥浜の方からは甘さ控えめの味が「これがうちの味付け」という意見もあり、貴重な意見交換の場になりました。今後は、味付けや調理温度の調節を行いながら製品化を目指していきます。



上：若狭高校生による紹介
下：フナの缶詰試作品



三方五湖子どもラムサールクラブ 美浜町新庄のブナの森へ

令和3年10月27日、美浜町新庄の滋賀県境の“水を生み出すブナの森”へ、講師・多田雅充さん(福井県自然観察指導員の会会長)と一緒に出かけました。ブナの大木が何本も倒れて根がむき出しになっている様子から、思いのほか根が浅いことや、倒れて何年も経過している幹にはたくさんのコケ類が繁殖し幹の分解を進めていることなどを観察しました。ブナの森は多くの生き物によって保水力の高い土壌をつくり、「緑のダム」の役割を果たしていることを学びました。

標高720mの広場での学び



ブナの実

滋賀県びわっこ大使との交流会

令和3年12月8日、滋賀県琵琶湖周辺の自然環境保全の次世代リーダーとして学び、活動している「びわっこ大使」との交流会を開催しました。この日は、びわっこ大使と子どもラムサールクラブ員が入り混じったグループ分けをし、午前中は三方五湖周辺の水鳥や田んぼのハクチョウの観察、午後はそれぞれの活動紹介、グループワークをしました。グループワークでは、午前中の観察会の内容を模造紙にまとめ、発表をしました。話し合い、協力し合う作業をとおり、お互いのことを知りながら笑顔いっぱいの交流会となりました。



三方五湖自然観察棟でびわっこ大使をお出迎えし、それぞれの活動について情報交換しながら親睦を深めました。

伊藤園から寄付

「お〜いお茶」の株式会社伊藤園さまより、三方五湖の保全にと25万円の寄付金を頂戴しました。これは、伊藤園さまの売上金の一部を頂戴するものです。10月13日、同社の今井剛史北陸地区営業部長より県の野路安全環境部長に手渡されました。寄付金は、三方五湖でも増加が懸念されるミシシippアカミミガメの駆除活動に活用させていただきます。寄付金を頂戴したことは、私たちの取組に大きな声援をいただいていると感じました。伊藤園さま、本当にありがとうございました!



贈呈式の様子

三方湖に石倉かごを設置

自然護岸再生部会では、令和3年9月29日、三方湖の山古川河口付近に石倉かご(自然護岸)を設置しました。玉石をネットに入れた石倉11基をコンクリート護岸の前に並べました。

現地立会いに、鳥浜漁業協同組合長、福井県内水面漁業連合会、水産課、自然環境課の職員が立ち会いました。設置には、NPO法人世界に誇るラムサール湿地三方五湖を育む会のメンバーにお願いしました。石倉の設置と同時に、モズクガニがさっそく石の上に乗ってきました。テナガエビをはじめ多様な生き物の生息場所となるのが期待されます。



重機を用いコンクリート護岸沿いにネットにいった石を設置

三方湖周辺での魚類調査

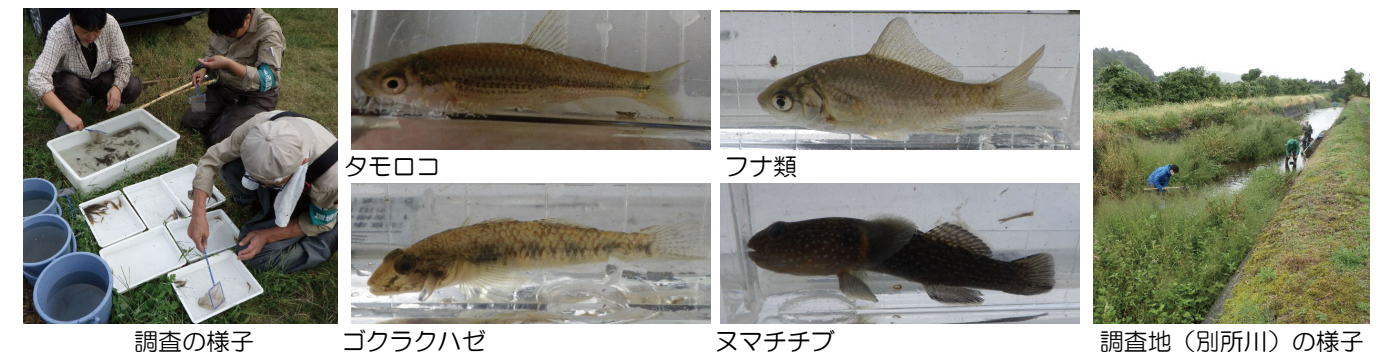
湖と田んぼのつながり再生部会では、三方湖流入河川の魚類相及びタモロコの生息状況を把握するため、三方湖への流入河川(山古川、はす川、高瀬川、別所川)において魚類調査を実施しました。9~12月に、各月に1回、たも網ともんどりにて魚類を捕獲し、種ごとの個体数などを記録しました。

調査の結果、19種(外来種:1種・ブルーギル)の魚類を確認し、タモロコについては、9月に20匹(別所川・18匹、山古川・2匹)、10月に13匹(別所川・1匹、山古川・8匹、高瀬川・4匹)を確認しました。

三方五湖水面等利用協議会発足

美浜町、若狭町、両町の観光協会や漁協、県、警察などから構成される「三方五湖水面等利用協議会」が、令和3年11月10日に発足しました(会長:美浜町西村正樹副町長、副会長:若狭町二本松正広副町長)。

これまでプレジャーボートや水上バイクなどによる危険な行為が繰り返されてきたことから、競技用ボートの安全確保や漁場や漁具を保護するため、安全意識とマナーの向上の啓発、巡回活動、航行ルール策定などが取組まれます。



調査の様子

タモロコ

フナ類

ゴクラクハゼ

又マチブ

調査地(別所川)の様子